解　説

第 ８ 章　　　エネルギー・上下水道

電力

電力需要量は増加、発電電力量は減少

電力調査統計によると、令和２年度の電力需要量(低圧、一般家庭向け)は2,059万MWhで、前年度に比べ3.2％増加しました。月別では１月がピークで、年間月平均の約1.5倍です。

[第8章1表より]

 電力需要量(大阪府内)

一方、発電電力量(全国)は、令和元年度は「新エネルギー等」の発電量が増加したものの、全体では前年度に比べ2.5％減少と、再び減少傾向にあります。

 発電電力量(一般電気事業用・全国)

再生可能エネルギー等

［経済産業省　資源エネルギー庁「エネルギー白書2021」より］

太陽光発電は10年前の約８倍に

　　大阪府環境農林水産部によると、令和２年度末現在の再生可能エネルギー(太陽光発電、廃棄物発電等)や分散型発電(コージェネレーション等)の導入状況は、太陽光発電が108万kW（住宅用47万4千kW、非住宅用60万6千kW）、廃棄物発電等が26万9千kW(うち一般廃棄物によるもの26施設、24万kW)、コージェネレーション等が56万2千kW(家庭用5万5千kW、事業用50万7千kW)です。

太陽光発電は、10年前(平成22年度)の約８倍です。

 太陽光発電導入量(累計)

[第8章2表より]

上水道

有収水量は逓減

　大阪府健康医療部によると、令和２年度の有収水量(料金徴収の対象となった水量)は10億437万2千㎥で、前年度に比べ293万1千㎥(0.3％)減少と、僅かながら減少が続いています。用途別では、事業用は1億5,224万1千㎥で前年度に比べ2,717万6千㎥(15.1％)減少し、生活用は6億2,661万2千㎥で前年度に比べ2,059万5千㎥(3.4％)増加しました。

※　大阪府工業指数は、平成31年１月速報（3月公表）から基準年次を平成22年から平成27年に改定しました。(５年ごとに改定)

 年間有収水量

※事業用、生活用の有収水量は、用途別の契約をしているもののみの合計値です。

[第8章6表より]